

第一回「インターグループ委員選出のお願い」説明会議事録

日時：2022年11月12日(土) 8:00～10:10

場所：ZOOM オンライン

参加者：A.A.オンライン・ミーティングポータルサイト運営委員会_タケシ(司会)・ヒロ・あつし・Shiro・りひと、今井理事(テック委員会)、ダグ WSM 評議員、ほか約 45 名もの仲間

■序文朗読：タケシ ■伝統朗読：Ken T.

■挨拶～当委員会発足から現在に至る経緯の説明：タケシ

-
- 2020年1月～：新型コロナウイルスの感染が拡大し始め、2月、3月と瞬く間にミーティング会場の閉鎖が広がって行く中で、AAの存続に対し危機感が高まる。
-
- 2020年4月：会場ミーティングの代替案として、急激に増えていたオンライン・ミーティングの開催情報を取りまとめて行くサイトの必要性を感じ、数名の仲間によって原案が作られ、「A.A. オンライン・ミーティングポータルサイト運営委員会」発足。短期間でサイト公開。※当初はFC2というサービスを利用しサイトを構築。
-
- 2021年3月：献金受付の案内を公開。
-
- 2022年1月：Wordpressのミーティングガイドプラグインを使ったサイトへリニューアル。※委員会発足当初から、AAメンバーの中で世界的に利用されている「ミーティングガイドアプリ」を日本でも広めて行こうという構想を持ち、連携可能な形でサイトを構築したが、現在は諸事情により連携停止中。
-
- 2022年3月：Squareというクレジットカード決済サービスを使ったオンライン献金が可能に。
-
- 2022年9月：「AA日本オンライン・インターグループオフィス開設にあたり」採択。※「AA日本オンライン・インターグループオフィス 説明会資料」P4に全文記載。
-
- 2022年10月：「インターグループ委員選出のお願い」告知開始。
-
- 2022年11月：説明会開催。(2回)
-
- 2022年12月：登録フォーム締め切り予定。
-
- 2023年1月：第一回AA日本オンライン・インターグループオフィス インターグループ委員集会開催予定。

委員会発足当初からは運営メンバーが徐々に増え、毎月一度のビジネスミーティング、サイトの改修を繰り返してきた。現在129のオンライン・ミーティング情報が掲載され、ある程度の形が作れたと考えている。今後は、各グループへ運営のバトンを渡し、新しいサービスとして担っていただくのが健全な形であると考えている。

■インターグループとは：あつし

※「AA日本オンライン・インターグループオフィス 説明会資料」P1～4の説明

■オンライン・グループの考え方、応募資格、今後やって行く事：Shiro

※「AA 日本オンライン・インターグループオフィス 説明会資料」P5～8の説明

■経験の分かち合い：ダグ WSM 評議員

今回オンラインインターグループの設立に関わった皆さま、常任理事会テック委員会の皆様、大変感謝します。また、コロナ禍の中で、有志で、ニーズに対し直ぐに発進し、私たちのためにサービスを作ってくれたことに大変感謝します。

まず自己紹介から始めさせていただきます。

私は、今現在、AA 日本常任理事会の WSM 評議員として任期 3 年目を迎え、2024 年 3 月までを任期とし AA の活動をやらせていただいております。ゼネラルサービスでは 1995 年に代議員を、2003 年、2004 年にはアメリカ、カナダの評議員をやらせていただきました。ローカルサービスでは、1995 年以前に、カリフォルニア サンロゼでインターグループ委員を、2009 年、2010 年には運営委員会(実際には法人理事会に相当する)の委員長をやらせていただきました。今回の JOI 発足に私の経験がどこまで役立つかわかりませんが、重なる部分もあろうかと思しますので私なりの経験をお話しさせていただきます。

北米では「インターグループ」と「セントラルオフィス」という名称がごっちゃに使われていて、明確に区別されていません。日本ではセントラルオフィスが 7 つあり、担当領域が地域と同じになっているため、北米とは状況が違い、皆さんがインターグループとセントラルオフィスとの違いに関して混乱することは十分理解できます。

本来であれば、インターグループやセントラルオフィスはもっと小ぢんまりしたものが沢山存在していても良いものなのです。日本では現在約 600 のグループが活動しているので、10～20 のインターグループがあっても良い規模だと思っています。

インターグループもしくはセントラルオフィスとは、ローカルグループがニーズを感じて作られるものです。例えば書籍販売など、1 グループでは出来ないことが、力を合わせることで出来るようになります。

インターグループ委員集会はグループの代表が集まり話し合いが行われますが、全グループから選出されているわけではありません。サンロゼを例に挙げると 300～350 グループが活動していますが、選出しているのは 1～2 割位のグループです。さらにインターグループ委員の中から、運営委員が互選され、任期を 2 年として輪番で担当しています。

・ 職員の雇用に関して

・ 12 ステップコール

・ 書籍販売

・ 24 時間ホットライン

・ ドラックドライビングスクールへの広報活動

など、様々なローカル活動に関する話し合いが行われています。

JOI は今現在とても大切な立場にあると思います。

それは CO が出来ない地域をわたるサービスを担おうとしているからです。但し CO をつぶす訳では無く、CO とは協力関係を築きながら AA をより良いものにして行くという事が大切です。

次にお伝えしたいのは、どんなサービスでも一番大事なのはグループの声という事です。現状、常任理事会、評議会レベルで私たちが気にしているのは、十分にグループの声が聞こえているか？という点です。伝統 2 がとても重要で、私たちグループの中に私たちが愛してくれているハイヤーパワーが、ハイヤーパワーの意思を伝えてくださるといふ事です。

AA には変な数学があって、 $1+1=3$ というもので、私のアイデアにあなたのアイデアが加わると、別の新しいアイデアが生まれるのというものです。私はそういった数学が好きです。

誰からでも素敵な考えが生まれます。

今後は是非、集会の中でグループの声を紡ぎだしていただけたらと願っています。

■質疑応答

Q：「インターグループ開設の提案が出た経緯について。評議会の決定に基づいているか？」

A：「委員会は 2020 年 4 月 Web サイトの構築とともに常任理事会のサポートのもと、有志により立ち上がった。その際既にローカルサービスとしての将来性（インターグループ化）について語られており、それが現実のものとなった。」

「第 27 回評議会において、オンライン・グループについての話し合いがもたれる。常任理事会はオンライン・グループがゼネラルサービス機構に参加できる仕組みを検討する委員会を発足させる事に対し、勧告決議された。」

「北米ではセントラルオフィスやインターグループを立ち上げる際、評議会の決は必要とせず伝統に則って立ち上げることができる。」

Q：「ポータルサイトの運営を誰が担うか、全体（ゼネラル）サービスの場で話し合われていないという認識。話し合われるべき。プロセスを抜きにして唐突に出てきた感が拭えず、現段階ではインターグループ化には賛成できない。」

A：「北米の場合、常任理事会がローカルサービスオフィスの立ち上げに関して干渉することはない。協力を求められれば対応するという姿勢。現段階では質問に対する明確な解答が出ないため持ち帰って確認をする。」

Q：「評議会の見解を求めるべき。評議会がローカルサービスなので勝手にやってくださいと言えばそれで良いが。」

A：「評議会の議題ないしディスカッションというテーマの中で出していただければ幸い。」

Q：「常任理事会がインターグループを作るようにと提案するのはおかしい、グループからの要請を受けて行うべき。常任理事会が口を挟むという構造は間違っている。まずはオンライン委員会を発足して委員を募る。そこが始まりではないか。委員が何をするかはミーティングリストの更新という認識。」

A：「2020年4月の委員会発足時、ミーティングがどんどん閉まっていき、一方でオンライン・ミーティングがどんどん立ち上がる緊急時だった。本来ならば常任理事会を離れて運営していくのが健全という話が当時からあった。従って突然沸いてきた話しではなく徐々にこうなっている。常任理事会の指示ではなくグループの良心からこういう方向に向かっているという認識。」

「発言されたオンライン委員会と、今回発足しようとしているオンライン・インターグループオフィスは名前が違うだけで、発想は一緒。今後行うことはそこで決めて欲しい。苦しんでいる仲間が問題なくつなげばという目的に沿っていけば良い。」

Q：「いくつかのオンライン・グループを掛け持ちでサービスを行っているのだが、議決権は被らない方が良いか。連絡員は立てて良いか。」

A：「グループへ重複して所属していても構わないとしているが、一人のメンバーが議決権を複数持たない方が良いであろうと考えから、一人一枠で選出して欲しい。連絡員を立てても良い。今後は改めて委員会で決めていただければ良い。」

Q：「私たちのミーティングは全世界に広がっている。AAが初めてという方からも問い合わせがありサイト運営に感謝している。

ミーティングガイドアプリとの連携が止まっていると言っていたが、ミーティングガイドアプリはリアル会場とも連携すると思っていて、困った仲間が今いる場所から最寄りの会場を調べたり、オンライン会場を調べるなどメリットがあると思う。今中断している理由は？」

A：「ミーティングガイドアプリと簡単にデータ連携できるという形でサイトを構築しているが、オンライン・ミーティングへのリンク欄に、HPのURLを記載している場合があり、アプリのガイドラインに抵触してしまう。現時点ではHP経由でミーティングへ入室する導線での繋がりやすさ、利用のしやすさを優先し、連携を一時中断している。今後は改めて委員会で決めていただければ良い。」

Q：「今回のインターグループは今までの有志に新たなメンバーが加わって運営していくということか？」

A：「そうではなくバトンを渡す形。一部の有志メンバーによる運営から、グループによる運営へ引き継いで、引継ぎが完了したらA.A. オンライン・ミーティングポータルサイト運営委員会は閉じる予定。」

Q：「JOIは各COと横並びの組織という認識でいいか？そうではなく新しいものか？」

A：「新しいもの。何もないところからつくった。そろそろ次のステージへ移行していこうという提案。AAは輪番制が大事。一部の人がずっとやっていく形は健全ではないと考えている。」

Q：「オンライン・ミーティングのみに参加している仲間の議決権など、AA全体の中での立場がどの程度改善されていくのか。」

A：「ゼネラルサービスにおける議決権は現状ない。今後決めていくスタンス。どう変わって行くか過渡期。オンラインもリアルもアルコール依存症者であることに変わりはない。公平になっていくことを目指す。」

Q：「献金についてはどうなるか。」

A：「今までは経費を差し引いて全体サービスである JSO へ献金していた。それも今後話し合っていたければ良い。」

Q：「オンラインのみのミーティング会場は、グループでは無く、特別ミーティングである。その認識で合っているか？」

A：「そんなことはない。AA メンバーが2、3人集まればグループと名乗ることが出来る。リアルもオンラインも同じ。グループと名乗るかどうかは各ミーティングの判断に委ねる。」

Q：「オフィスという言葉だが、今回のオンライン・インターグループオフィスは事務局という認識で良いか。」

A：「7つのCOと同列ということではない。伝統9が当てはまるという認識。グループ間の情報共有を円滑にする目的。専門家協力などは今出来ていないが、今後は目指したり、そういった事を話し合える場。」

Q：「日本で運営しているオンライン・グループのインターグループという認識か」

A：「今回は日本語で開催していることを前提とした。運営母体が海外でも構わない。またインターグループ委員選出は各グループ必須という訳ではない。あくまでも任意。」

Q：「議事録配信は複数のメアドに対し行ってもらえるか。」

A：「もちろん。配信希望をいただいたすべてに配信する。」

Q：「来年1月からの発足にあたって、委員長、中心メンバーなどの目途は立っているか。また引継ぎの期間はどれぐらい考慮しているか。」

A：「立ち上げの時のメンバーなどは必要と思われる役割を「AA 日本オンライン・インターグループオフィス 説明会資料」P8にて記載した。集まって話し合っていたきたい。目途というものは立てていない。最初は委員会の進行なども手伝う。引継ぎについて、立ち上げてみないとわからない点もあるが、ある程度長くかかるという認識。」

Q：「オンライン・ミーティングが胸を張ってホームグループと名乗れるようになって欲しい。オンライン・ミーティングは女性ミーティング、ヤングミーティングなどのような特別ミーティングという認識の人が多。AA全体の中で通常ミーティングとして認めてもらえることを目指すといった意図はあるのか。」

A：「全体サービスへの関わり方に関しては前述した通りで今は過渡期。今後、こういった活動を通してもっと理解が進んでいけばと考える。オンライン・ミーティングはグループ。分かち合いの場所がオンラインであるというだけ。」

補足情報：【オンライン・グループの登録受付について】

第27回評議会報告書 56～58 ページ

「オンラインでのみ開催しているミーティングを行うグループ登録を受け付ける。」

勧告決議された。

JSO は評議会終了後適時、登録を実施。

Q：「場所がどこかに限定されないので CO に登録できない。代議員を出せないから扱っても消極的という印象。」

A：「CO は物理的な地域、地区でサービスを提供して来たので、エリアを超えたオンライン・ミーティングを直ぐに融合出来ないなどあるが、軽視している訳では決していない。先日関東甲信越 CO 所長の話をついたが、とても大切に考えている。ミーティング会場一覧表には現在 70 近くのオンライン・ミーティングを掲載している。」

Q：「インターグループをつくろうという声は各グループから集まったものなのか。上からという目線を感じる。ベクトルが逆ではないか。」

A：「ベクトルが逆という認識、よく理解できる。ただ誰かが言い出さない限り、この着地点は見いだせない気がする。見え方としてそう思われるのはわかるが言い出しっぺが必要。自身もヤングのオンライン・ミーティングがホームグループだが、JSO への献金などを取り決め発進した。」

Q：「言い出しっぺが必要は理解できる。ただ、インターグループが必要かの議論もなされるべき。すべてグループの声で決めていくべきと思う。」

A：「すべてが自由。廃止するのも、新しいイベントを始めるのも。提示させていただいたものに対して、今後グループの良心で判断してもらい認識。但し今回の意見を受けて、集会で最初にインターグループ化に対する可否の判断を仰ぐようにしたい。」

Q：「アノニミティについての認識、ガイドラインは？外部の人間にサイトの URL を渡しても問題ないのか？」

A：「まだ苦しんでいる仲間のためには分かりやすい場所に出してゆく必要がある。アノニミティの問題はそれぞれのグループに戻る。公開を制限するよりも入ってくる人に対してアノニミティを守る配慮をして行く必要がある。インターグループもゼネラルサービスもそれには干渉しない。」

Q：「グループ主体の運営に切り替えていきたい。新しい組織がそれを廃止してもという発言があった。それは現在の運営が行き詰まっているから出てきた言葉なのか。やめればいいは無責任。厳しいならオフィシャルで話し合うべき。」

A：「そういう意味ではない。押し付ける訳ではなく、すべてが自由という意味でお伝えした。」

Q：「当初、全体がわかりにくいという印象だった。勘違いがあった。単純にオンラインポータルサイト運営委員会からインターグループへのバトンタッチという認識で良いか。」

A：「わかりにくい点はお詫びします。単純にオンライン・ミーティングサイト運営のバトン渡しということではなく、オンライン・グループ間の連携をとるサービスを、一部の有志からグループに橋渡しした

いということ。現状できているのはミーティングガイドの更新が主な任務だが、将来像としてはもっと大きな役割を担って行くイメージ。そういった目標、目的の部分も含め引き継がせていただきたい。」

■閉会の挨拶・私の責任朗読：あつし

私の責任

誰かが、どこかで助けを求めたら

必ずそこにAAの(愛の)手が

あるようにしたい。それは私の責任だ。

追記：

11月14日(月)にA.A. オンライン・ミーティングポータルサイト運営委員会のビジネスミーティングが行われ、1月開催予定の集会にて、インターグループ設立に関し参加者の承認を求め、その後設立させる事が決まった。

「第一回インターグループ委員準備集会」の開催日時が決まった。

※設立前での開催になるため名称変更。

日時：令和5年1月9日(月・祝) 10:00～12:00

場所：Zoom

詳細を近日中に配信することが決まった。